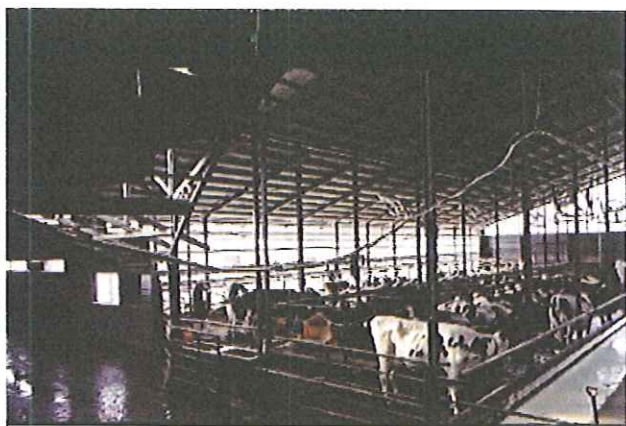


牛の採食機会を増やす取り組み

M農場は産乳成績、繁殖成績とも非常に優れた農場です。この農場では乳房炎対策と同時に牛の採食機会を増やすための面白い取り組みをしています。

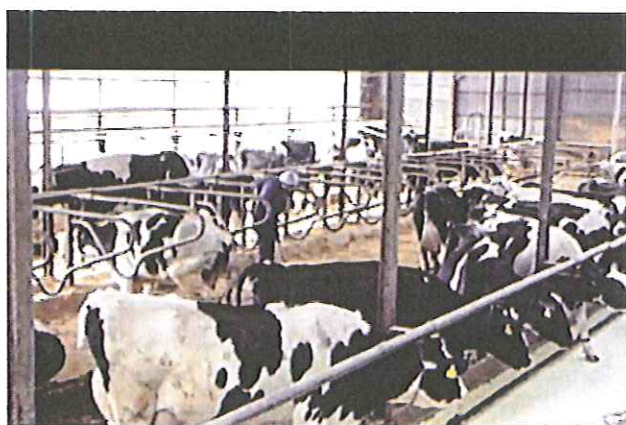
朝晩の搾乳時のベッド掃除の他に、乳房炎対策のために昼の12時にもフリーストールのベッド掃除をします。そして掃除をしつつ寝ている牛をすべて起こしそのタイミングで新しいエサを給餌することで、多くの牛が否応なしに採食意欲を高められることになり、まさに一石二鳥の取り組みです。



従業員がベッド掃除をしつつゆっくりと牛を起こし始めた。決して乱暴には追いたてない。



徐々に牛を起こしていく。起こされたけどまた戻ってきて寝る牛もいるがOK。



多くの牛が起こされた。起こされた牛はとりあえず飼槽に顔を出す。このタイミングで新しいエサが配られ始める。



ほぼすべての牛が飼槽に並んで採食している。通常の給餌作業ではここまですべての牛が飼槽に並ぶことはあまりない。

「搾乳の前後」と「新しいエサを給餌される」というタイミングに牛の採食意欲は非常に高まりますが、それでも全ての牛が飼槽に並ぶことは稀です。この他に「エサ押し」をした時なども採食意欲は高まりますが、前者に比べるとインパクトは弱くなります。基本的にはフリーストール飼養の牛は、搾乳以外の採食・飲水・休息などの行動はすべて自発的におこなわれることが前提条件なのですが、もう一口エサを食べさせたいと思うときにはこういった方法もありなのではないでしょうか？

注意すべきは、牛の休息時間の確保を著しく阻害しない時間帯におこなうという点です。搾乳からの時間等を考慮しながら決める必要があるでしょう。

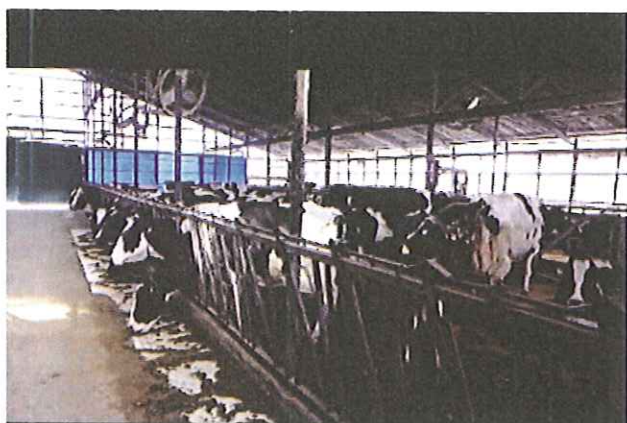
こちらは別のペンです。こちらでもベッド掃除が始まりましたが、飼槽にエサがまだ少しあるので本日は給餌時間を遅らすことにしたようです…。



牛を起こす前の飼槽。まだ少しエサがあるので給餌時間を遅らせるとのこと。



ベッド掃除をしながら寝ている牛を徐々に起こしはじめたが…。



給餌と同時に起こすときほど飼槽への出現率は高くない。

牛を起こす作業を給餌と同時におこなわなかったこちらのペンでは飼槽への出現率が前ページのペンに比べあまり高くなく、ただ単に牛を起こしただけでは採食意欲を高める事へのインパクトは弱いと思われます。

また別のペンでは「エサ押し」と同時に牛を起こしていましたが、こちらもインパクトとしてはあまり高くありませんでした。新鮮なエサの給餌との組み合わせがもっともインパクトがあるように思われます。

3回搾乳での増乳効果を説明する理由の一つとして、「搾乳が1回増えることで牛の採食意欲が高まる機会が1回増える」ということが挙げられます。タイミングを計って寝ている牛を起こし飼槽に向かわせるということは、この3回搾乳での採食意欲を高める効果に似ており、採食量増加に効果的であると考えます。この他にも「給餌回数を増やす」ということも採食意欲を高めるインパクトとしては非常に大きく効果的であり、「エサ押し」もタイミングや回数によっては大きなインパクトをもつことになります。

採食量を増やすという取り組みは、飼料設計だけにたよらず、安全に牛への栄養供給を増やすことにつながりますが、1日のなかでの「牛の休息時間の確保」への配慮も同時に重要なポイントとなります。